

平成29年度
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	13 P
IV	おわりに	24 P

平成30年1月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査

ア 国語A、算数・数学A～主として「知識」に関する問題

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

○実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 国語B、算数・数学B～主として「活用」に関する問題

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

○様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

平成29年4月18日(火)

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	19,456 校	999,723 人	9,539 校	982,811 人
北海道(公立)	971 校	35,802 人	559 校	37,265 人
留 萌 市	5 校	154 人	3 校	127 人

※対象児童生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数(校)に含まれていない(札幌市を含む)

6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答率、平均正答数等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

Ⅱ 教科調査結果の概要

1 平均正答率から見る学力の状況の概要

(1) 平成29年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

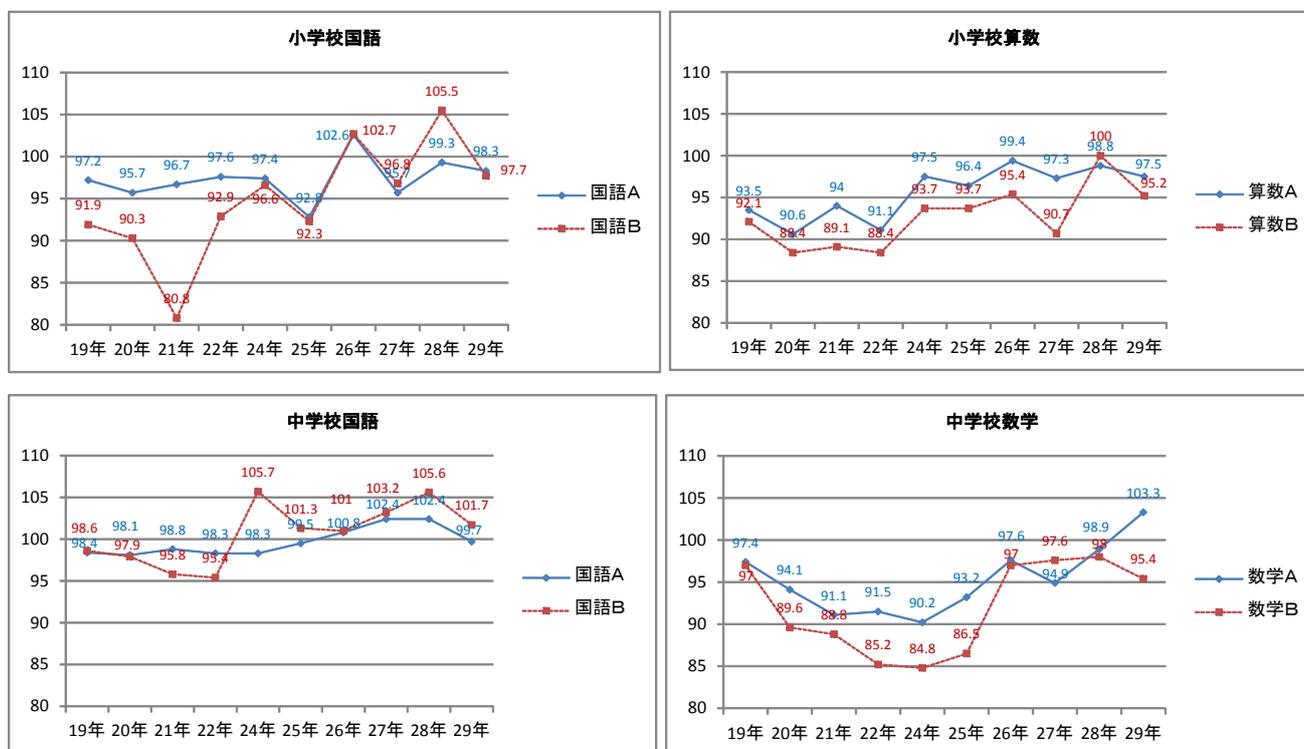
	小 学 校				中 学 校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
留 萌 市	73.5	56.2	76.6	43.7	77.2	73.4	66.7	45.9
北 海 道	73.7	56.3	77.3	43.5	76.7	71.7	63.7	46.9
全 国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
北海道との差	-0.2	-0.1	-0.7	+0.2	+0.5	+1.7	+3.0	-1.0
全国との差	-1.3	-1.3	-2.0	-2.2	-0.2	+1.2	+2.1	-2.2

(2) 全国の平均正答率を100としたときの11年間の推移

※調査問題が毎年異なり、平均正答率を単純比較できないため、全国の平均正答率を100とする。

(市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

※H23は、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載とする。

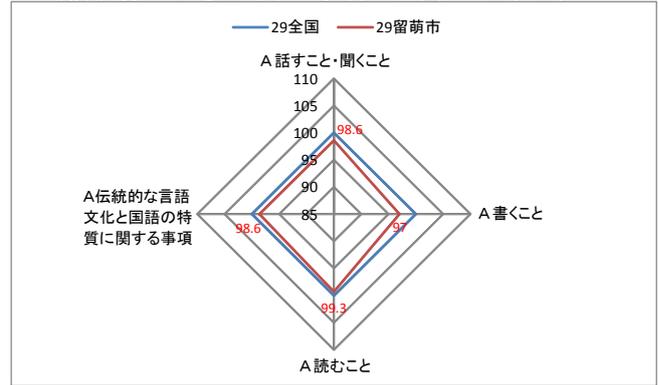


- ・ 全国の平均正答率を上回ったのは中学校国語B、中学校数学Aである。また、小学校算数B、中学校国語Aは北海道の平均正答率を上回っている。
 - ・ 全国の平均正答率を100としたときの11年間の推移から、小学校では国語A・Bともに平成26年度以降は全国の平均正答率を上回るか、下回っても差が5ポイント以内である。また、算数Aは依然として、全国の平均正答率を下回っているが24年度以降、差は4ポイント以内である。
- 一方、中学校では国語Bは平成24年度より全国の平均正答率を上回り、国語Aも平成25年度以降ほぼ全国の平均正答率と同じである。また、数学A・Bともに平成24年度以降上昇傾向であり、今年度数学Aは全国の平均正答率を上回った。また、ここ4年間は数学A、Bともに下回っても、差はほぼ5ポイント以内である。

2 小学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	11.0問／15問	73.5%
北海道	11.1問／15問	73.7%
全国	11.2問／15問	74.8%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

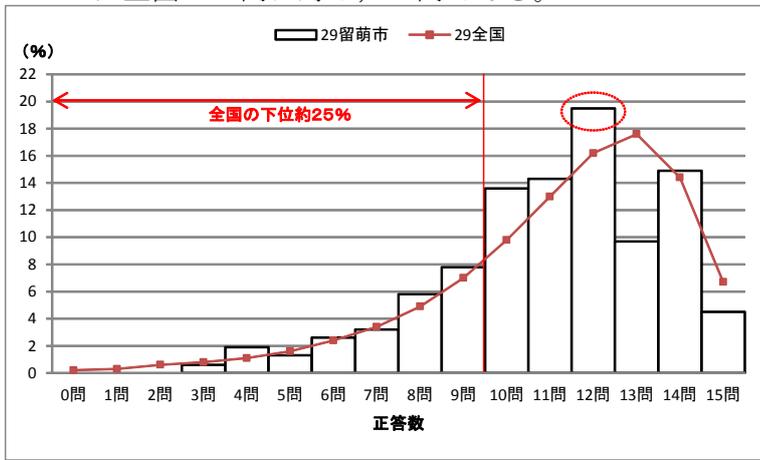


(1) 「領域別正答率」の傾向

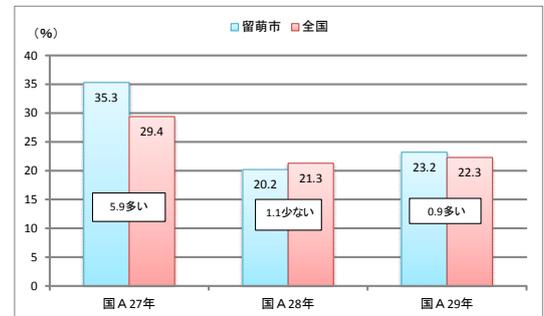
- すべての領域が、全国とほぼ同様の傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

- 15問中、正解した児童数が最も多かったのは全国が13問に対し、12問である。



- 下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べやや多くなっているが、全国との差は僅かになっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 9/15問	(H29) 4/15問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 読むこと	俳句の情景を捉える	グループの話合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する	62.3%	57.0%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	漢字を書く (参加たいしょう)	34.4%	42.0%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	古文における言葉の響きやリズムを楽しむ みながら読む	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する	66.9%	71.1%

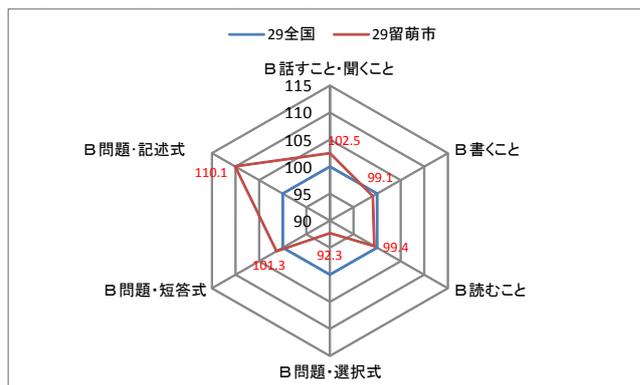
国語Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 漢字を各学年において正しく読んだり書いたりして、各教科等や日常生活で使用される文や文章の中で適切に使うことができるように指導するためには、学習した漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、指導することが大切である。
- 低学年の段階から、音読や暗唱をするなどして、古文の楽しさを実感できるように、計画的、継続的に指導することが大切である。

3 小学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	5.1問／9問	56.2%
北海道	5.1問／9問	56.3%
全国	5.2問／9問	57.5%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

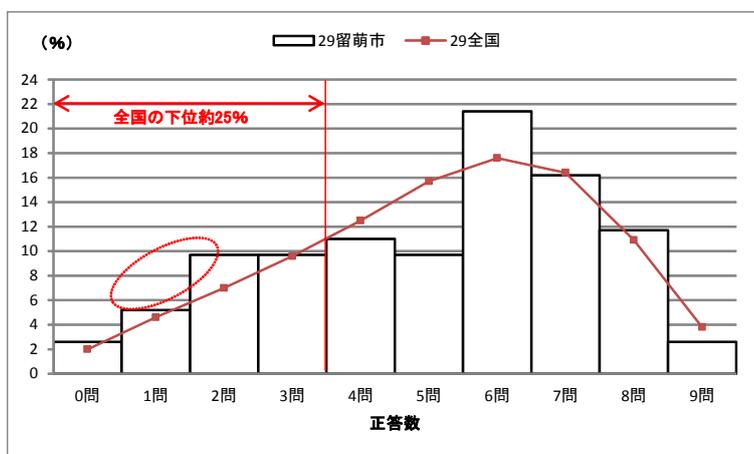


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

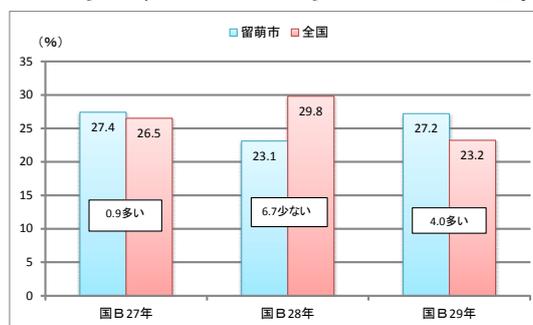
- ・すべての領域が、全国とほぼ同様の傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べ高い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・9問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様に6問である。



- ・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ多く、また、今年度は全国と比べても1問、2問正解という児童が多く、4ポイント多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 7/10問	(H29) 6/9問
----------------	-------------	------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと 読むこと	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる書く	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く (記述式)	53.2%	43.7%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
読むこと	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、[A]に当てはまる言葉として適切なものを選択する	64.9%	75.9%
書くこと	目的や意図に応じ、引用して書く	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する	63.0%	70.9%
書くこと	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える	【緑のカーテン作りへの協力のお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する	63.6%	70.8%

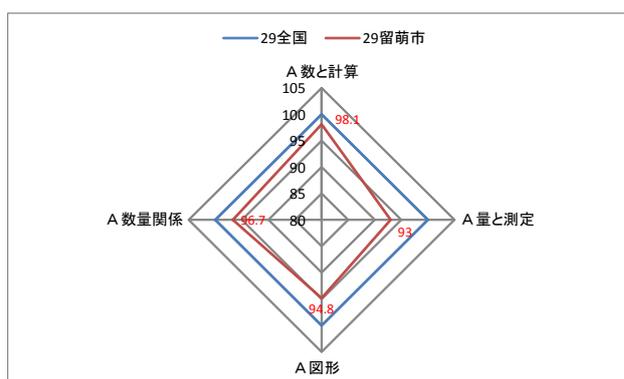
国語Bにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 心に残った叙述を取り上げ、その叙述をどのように解釈したのか、自分の考えを明らかにしながら話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付き、各自の読みを広げていくことができるように指導することが大切である。
- 説得力をもって自分の考えを伝えるためには、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることが重要であり、本や文章などから必要な語句や文を引用することができるように指導することが大切である。
- 自分の考えを明確に伝えるためには、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えて書くことが重要であり、文章の種類や特徴を踏まえた上で自分の考え及び相手の理解が明確になるように、文章の構成を工夫する必要がある。

4 小学校算数A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	11.5問／15問	76.6%
北海道	11.6問／15問	77.3%
全国	11.8問／15問	78.6%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

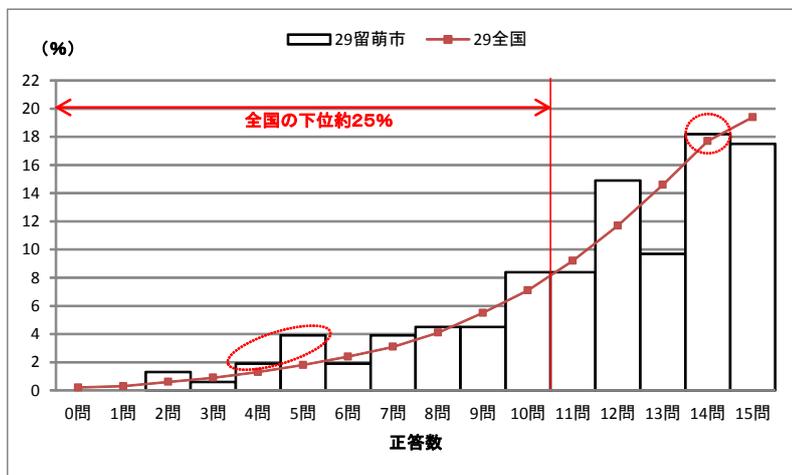


(1) 「領域別正答率」の傾向

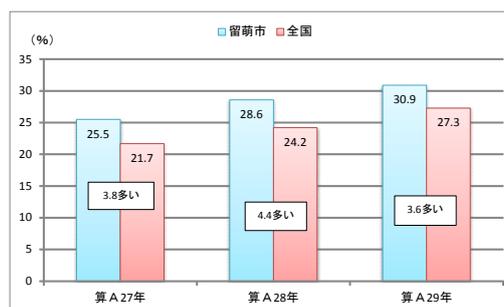
- ・「量と測定」「図形」の領域は、全国と比べ、やや低い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・15問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国は15問に対し、14問である。



- ・下位層に含まれる児童の割合が前年度より多く、3割を超え、特に4問、5問正解という児童が多い。また、全国との差は依然として多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 5/16問	(H29) 5/15問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	整数の乗法の計算をすることができる	123 × 52 を計算する	90.9%	85.2%
数と計算	二つの数の最小公倍数を求めることができる	8と12の最小公倍数を求め	89.6%	86.2%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算 数量関係	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	$6 + 0.5 \times 2$ を計算する	54.5%	66.6%
量と測定	任意単位による測定について理解している	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ	63.0%	70.7%
図形	立方体の面と面の位置関係を理解している	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ	80.5%	86.7%

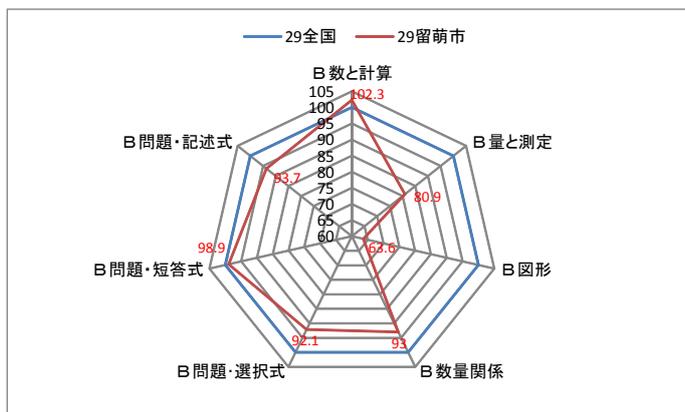
算数Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけではなく、具体的な場面と関連付けながら理解できるようにすることが大切である。
- 量の比較や測定においては、直接比較、間接比較、任意単位による測定、普遍単位による測定について、それぞれのよさを理解し、新たに学習する量の比較や測定に活用することができるようにすることが大切である。
- 具体物を用いた活動を通して、立体図形を切り開いてできる展開図や、展開図からできあがる立体図形を想像する機会を設けることが大切である。また、実際に組み立てた立体と見取図、展開図を関連付けながら、垂直や平行になっている面を確認する活動も大切である。

5 小学校算数B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	4.8問／11問	43.7%
北海道	4.8問／11問	43.5%
全国	5.1問／11問	45.9%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

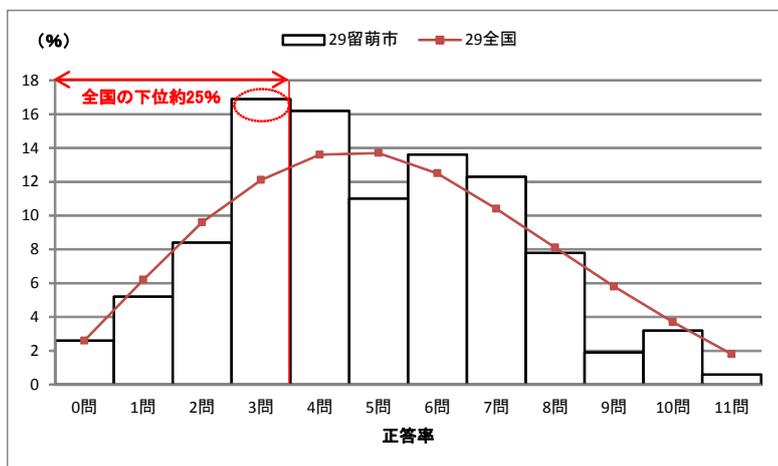


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

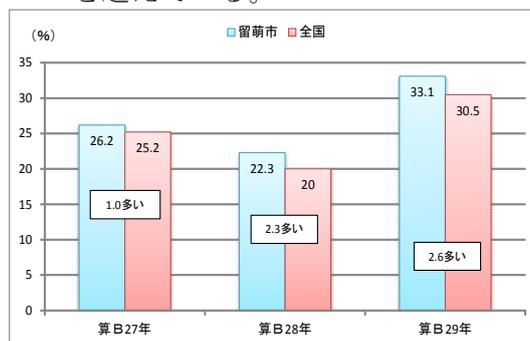
- ・「図形」「量と測定」の領域は、全国と比べ低く、「数量関係」もやや低い傾向である。
- ・記述式、選択式の問題については、全国と比べやや低い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同一正答数に含まれる割合」の傾向

- ・11問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が5問に対し、3問である。



- ・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ9.8ポイント多く、3割を超えている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 7/11問	(H29) 3/11問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算 数量関係	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く (記述式)	48.1%	38.6%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
量と測定 数量関係	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める (記述式)	16.9%	26.1%
量と測定 数量関係	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ	59.1%	67.9%
図形 数量関係	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く (記述式)	8.4%	13.2%

算数Bにおいて、留萌市の児童への指導にあたっては

- 測定値の平均を求める際は、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりすることが大切である。
- 日常生活や他教科での学習場面で平均を求める際、平均を求める式の意味を場面や状況と関連付けて考察し、適切に平均を求めることができるようにすることが大切である。
- 日常生活の中には、算数で学習したことを活用して、数理的に処理し合理的に判断できる場面がある。日常生活の事象を、割合を活用して数学的に解釈するためには、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え判断することが大切である。また、判断した理由や問題を解決した過程を数学的に表現することができるようにすることも大切である。

6 中学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	24.7問/32問	77.2%
北海道	24.5問/32問	76.7%
全国	24.8問/32問	77.4%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

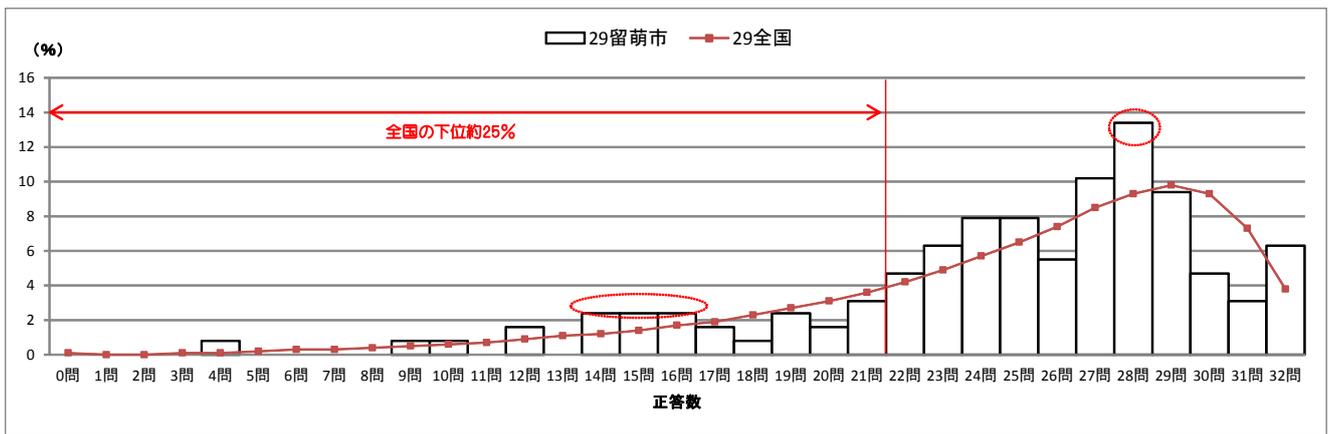


(1) 「領域別正答率」の傾向

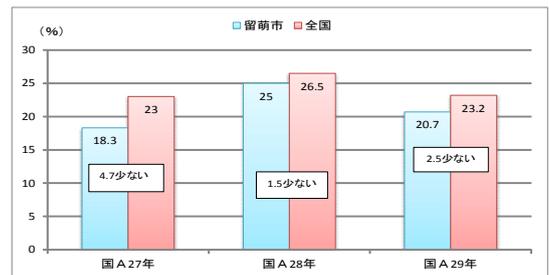
- ・すべての領域が、全国とほぼ同様の傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれている割合」の傾向

- ・32問中、正解した生徒数が最も多かったのは全国が29問に対し、28問である。
- ・22問から25問正解した生徒の割合は26.8%であり、全国と比べても5ポイント以上多くになっている。



・ 下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ4.3ポイント少なく、全国と比べて少なくなっている。ただし、14問から16問正解という生徒が多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

① 全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H 2 8) 27/33問	(H 2 9) 18/32問
----------------	----------------	----------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	古典には様々な種類の作品があることを知る	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する	85.0%	78.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く(雨で運動会が <u>エンキ</u> になる)	68.5%	62.3%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	行書の特徴を理解する	行書で書かれた「和」の特徴の組み合わせとして適切なものを選択する	68.5%	63.7%

② 全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	適切な語句を選択する(えりを正しく話を聞く)	63.0%	76.9%
読むこと	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する	52.0%	60.1%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す(あやしう)	69.3%	77.2%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く(組織の <u>キボ</u> を大きくする)	55.1%	62.8%

国語Aにおいて、留萌市の生徒への指導にあたっては

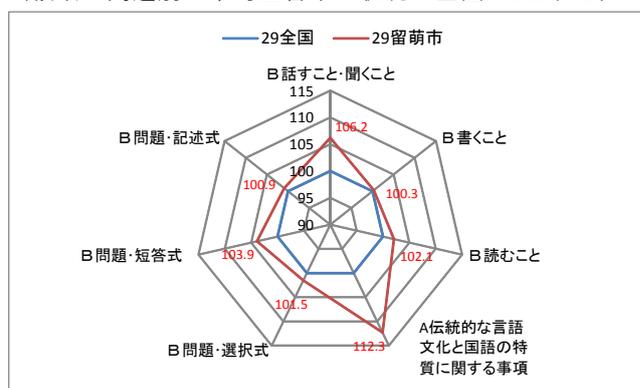
- ことわざや慣用語の指導については、各教科等の学習や読書活動をする中で出合った言葉を取り上げ、それぞれの意味を確認するとともに、具体的な使用例を考えるなどの学習活動が有効である。

- 文学的な文章を読む際には、文脈に即して語句の意味を的確に捉えながら読むように指導し、その際、その語句の一般的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて、文脈の中における具体的、個別的な意味を捉えるようにすることが大切である。
- 古典の学習の際には、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像することができるように指導することが大切である。
- 漢字を書くことの指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように注意しながら学習させる必要がある。

7 中学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.6問／9問	73.4%
北海道	6.5問／9問	71.7%
全国	6.5問／9問	72.2%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

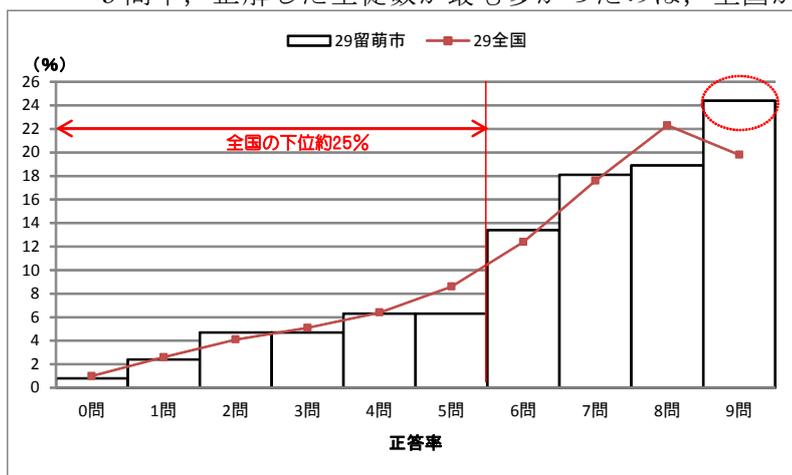


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

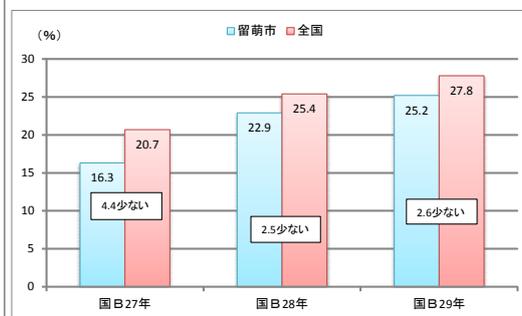
- ・すべての領域が全国より高く、特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は高い傾向である。
- ・すべての問題形式についても、全国とほぼ同様の傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数に含まれる割合」の傾向

- ・9問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が8問に対し、9問である。



- ・下位層に含まれる生徒の割合が全国より少ない傾向は続いているが、その割合は年々多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 9/9問	(H29) 5/9問
----------------	------------	------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	90.6%	85.4%
書くこと 読むこと	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く(記述式)	46.5%	41.4%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと	必要な情報を集めるための見直しをもつ	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く(記述式)	60.6%	68.8%

国語Bにおいて、留萌の生徒への指導にあたっては

- 自ら課題を決めて文章を書く際には、目的や意図を明確にし、必要な情報を集めながら自分の考えをまとめるように指導する必要がある、その際、どの情報を提示すれば伝えたい事柄が明確に伝わるのか、提示することでどのような効果が期待できるのかなど、見通しをもって情報を集め、整理するように指導することが大切である。

8 中学校数学A

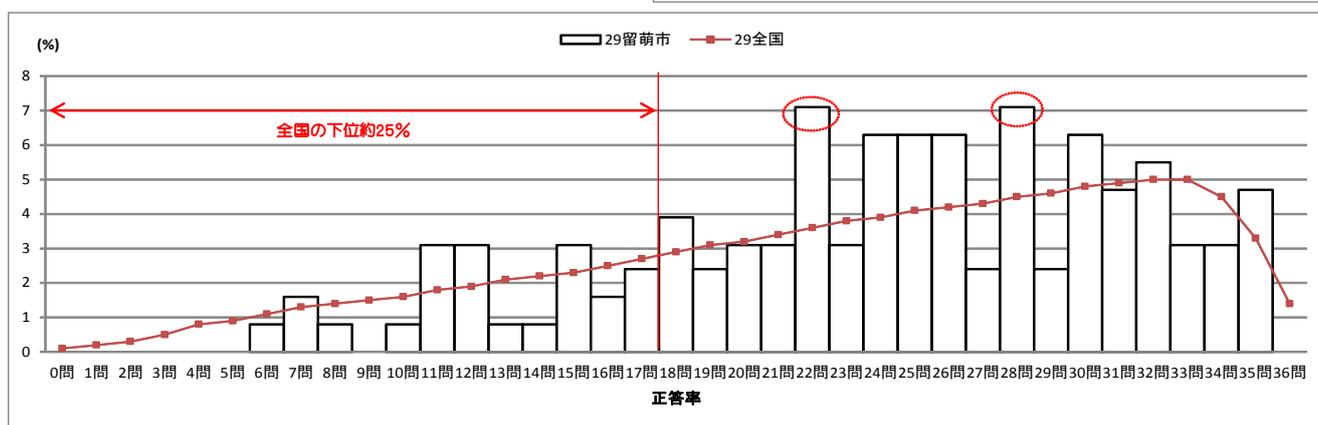
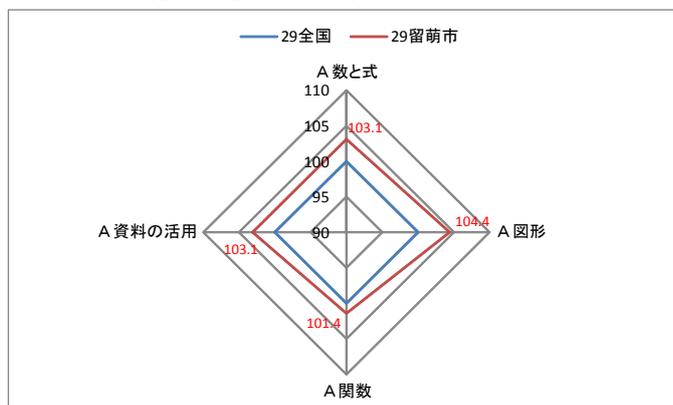
	平均正答数	平均正答率
留萌市	24.0問／36問	66.7%
北海道	22.9問／36問	63.7%
全国	23.3問／36問	64.6%

(1) 「領域別正答率」の傾向

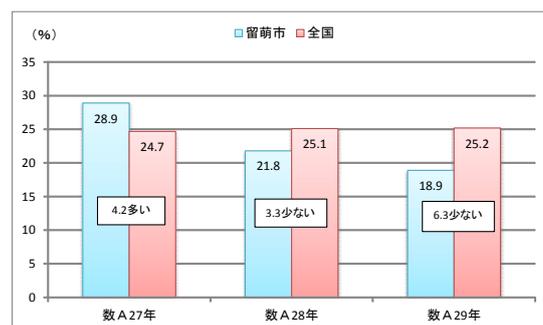
- ・すべての領域が全国と比べ、やや高い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%」の傾向

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



- ・36問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が32、33問に対し、22、28問である。
- ・下位層に含まれる生徒の割合は前年度と比べてもさらに少なく、20%を割っている。また、全国と比べても、6ポイント以上少なくなっている。0問から5問正解の生徒は全くいない状況である。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 17/36問	(H29) 23/36問
----------------	--------------	--------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
図形	多角形の内角の和の求め方を理解している	n角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を選ぶ	85.0%	69.4%
数と式	整式の加法と減法の計算ができる	$(2x + 5y) - (6 \times -3y)$ を計算する	90.6%	78.5%

資料の活用	「同様に確からしい」ことの意味を理解している	さいころを投げたときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	87.4%	78.0%
関数	関数の意味を理解している	長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関係である」という形で表現する	29.9%	20.6%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
資料の活用	範囲の意味を理解している	反復横とびの記録の範囲を求める	15.0%	28.6%
関数	二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ	56.7%	63.0%
数と式	2つの負の数の和は負の数になることを理解している	aとbが負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	64.6%	69.3%

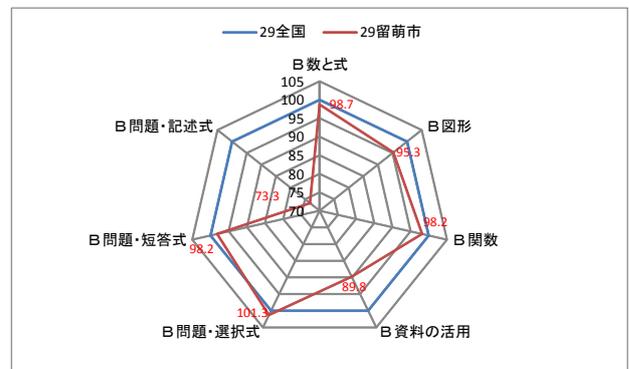
数学Aにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 資料の散らばりの程度を捉える活動を行う際に、資料の最大値から最小値をひいた値を求める上で、資料の範囲の意味を理解できるようにすることが大切である。
- 二元一次方程式 $ax + by + c = 0$ を一次関数の式とみることにより、グラフの特徴を一次関数と関連付けて理解できるように指導することが大切である。
- 正の数と負の数の四則計算の意味について理解できるように指導することが大切である。

9 中学校数学B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.9問/15問	45.9%
北海道	7.0問/15問	46.9%
全国	7.2問/15問	48.1%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

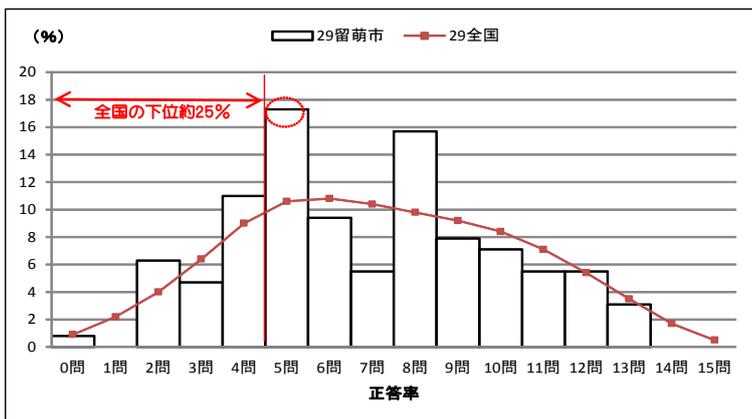


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

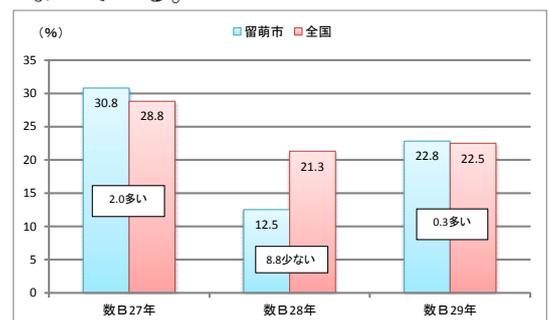
- ・「資料の活用」の領域は、全国と比べ低く、「図形」の領域もやや低い傾向である。
- ・記述式の問題は全国と比べ、低い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が6問に対し、5問である。



- ・下位層に含まれる生徒の割合が前年度より多くなり、全国よりも僅かに多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H28) 7 / 15問	(H29) 6 / 15問
----------------	---------------	---------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
図形	与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	58.3%	52.8%
数と式	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	85.0%	80.4%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
資料の活用	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	「420分未満より420分以上の女の子が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する (記述式)	6.3%	17.6%
図形	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる	$\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める	52.8%	60.0%
図形	2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる	四角形 $ABCD$ の模様が1回の回転移動によって四角形 $BEFG$ の模様に重なるとき、どのような回転移動になるか説明する (記述式)	7.9%	14.0%
数と式	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する (記述式)	9.4%	14.5%

数学Bにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 資料の分布の様子を捉える場面を設定し、資料の傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切である。なお、総度数が異なる2つの集団を扱う際には、相対度数を用いると各段階ごとの比較が可能になることや、相対度数を使った度数分布多角形を用いると2つの資料の分布の特徴を捉えやすくすることを確認する場面を設定することも考えられる。
- 辺の長さや角の大きさなどを求める場面を設定し、図形の性質を用いることができるように指導することが大切である。
- 日常的な事象において、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定し、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるように指導することが大切である。
- 事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるよう指導することが大切である。その際、事柄の意味を事象に即して読み取り、読み取った意味に基づいて、根拠を明確にすることが大切である。

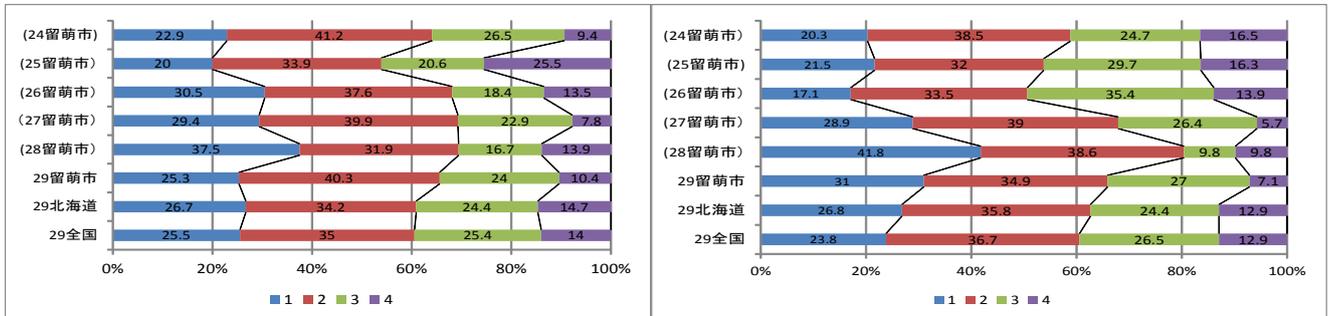
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。

1 学習に対する関心・意欲・態度<児童生徒> 学習態度・学習規律<学校>

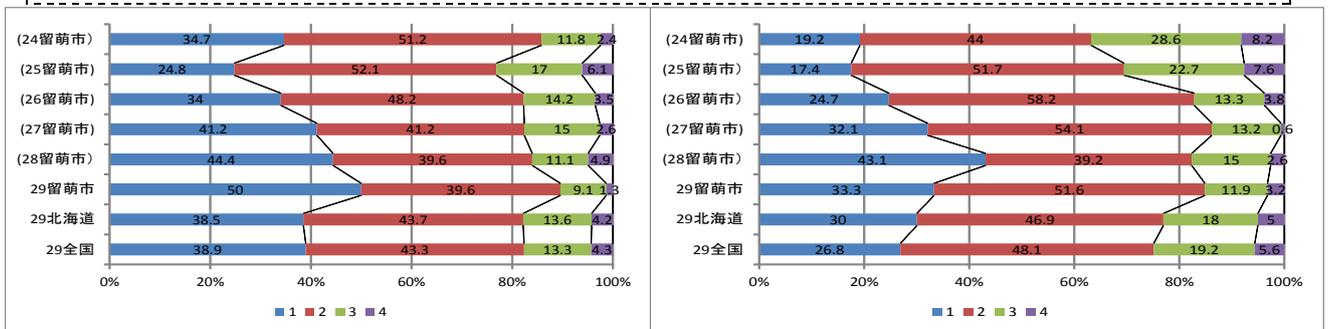
(1) 国語の勉強は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



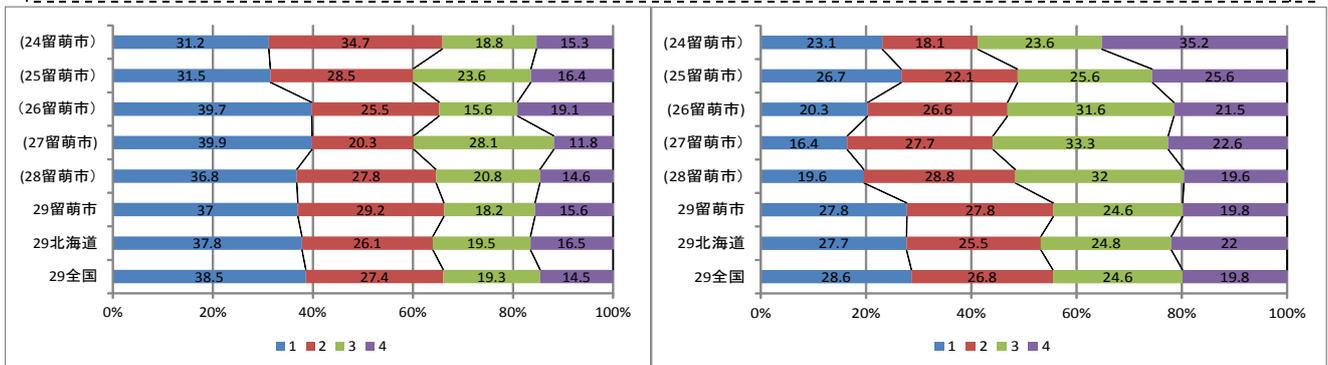
(2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



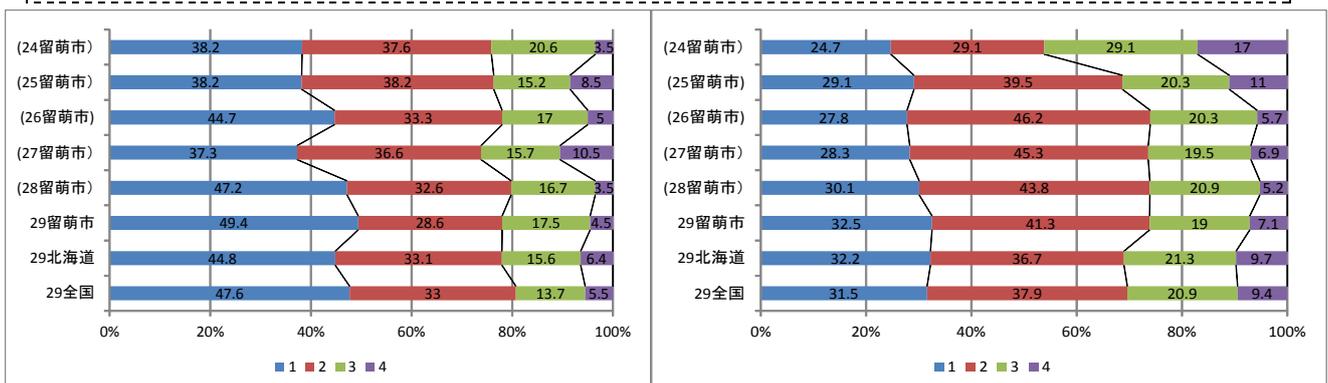
(3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



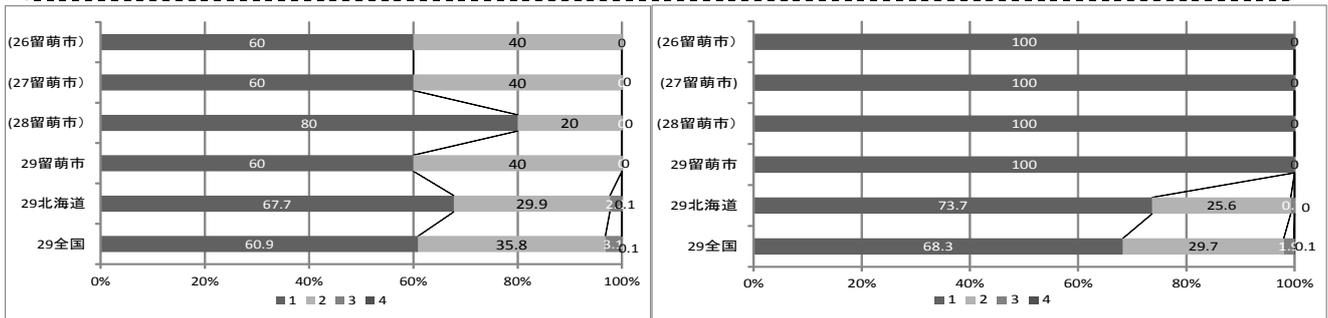
(4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



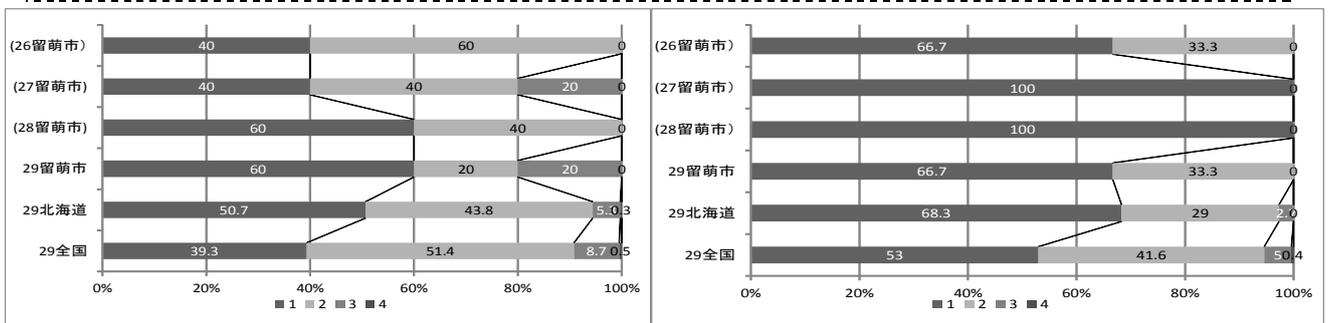
(5) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



(6) 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



【小学校】

- ・国語の勉強は好きであると肯定的に回答した児童の割合は全国より高い。
- ・国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は年々増加し、全国より高い。
- ・算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は27年度より増加傾向である。
- ・すべての学校で学習規律の維持の徹底がなされているが、落ち着いた授業態度では課題のある学校がある。

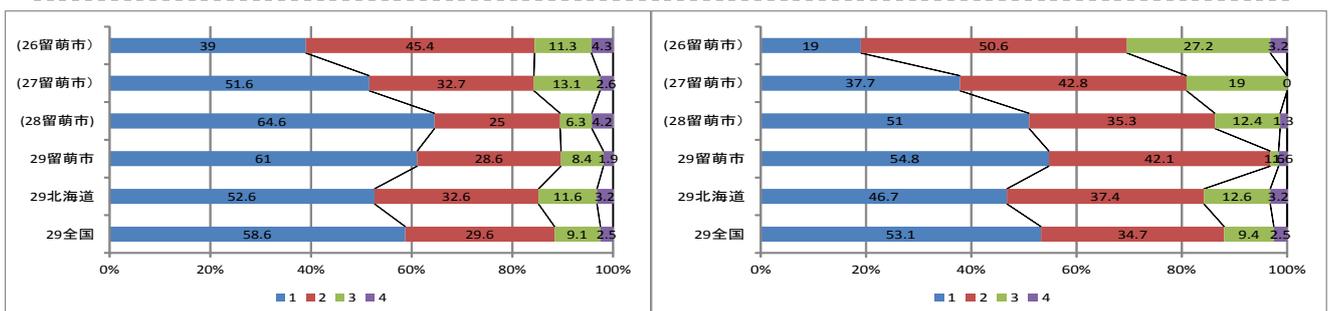
【中学校】

- ・国語の勉強が好きである、授業の内容はよく分かると肯定的に回答した生徒の割合はともに全国よりも高い。
- ・数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は27年度より増加傾向である。
- ・すべての学校で学習規律の維持の徹底がなされ、生徒は落ち着いた授業態度である。

2 学習状況(言語活動・指導状況) <児童生徒> 指導方法・言語活動<学校>

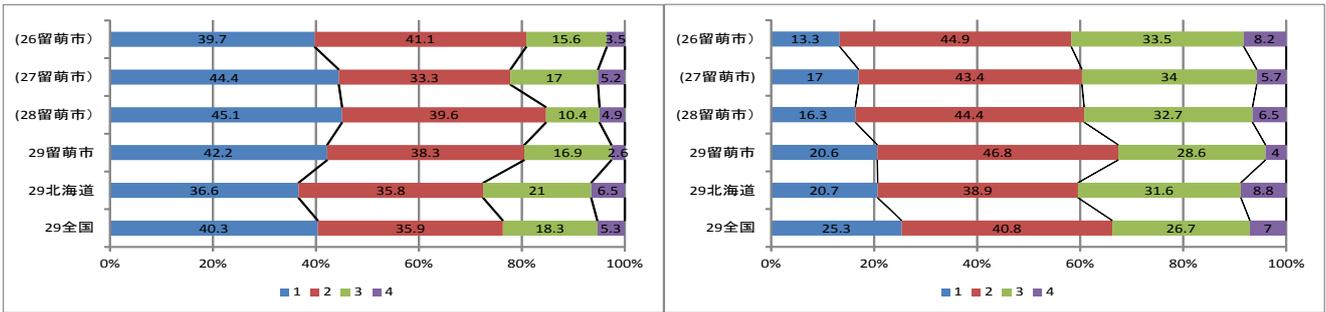
(1) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



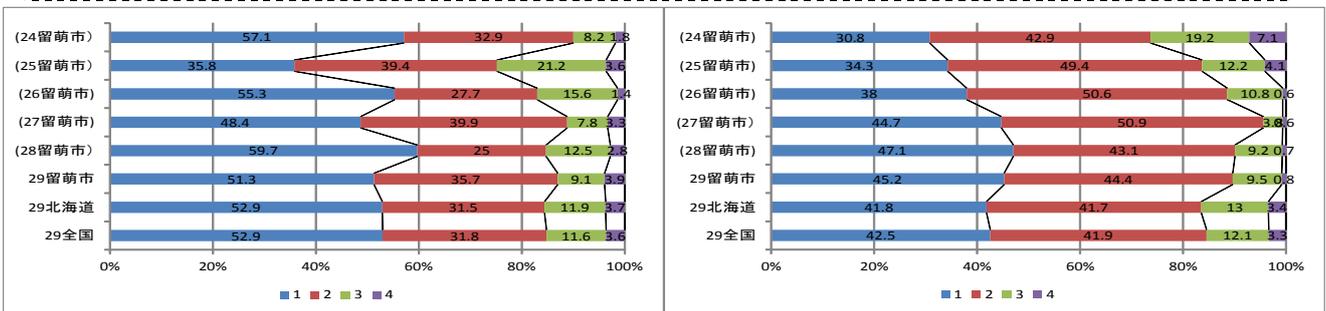
(2) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



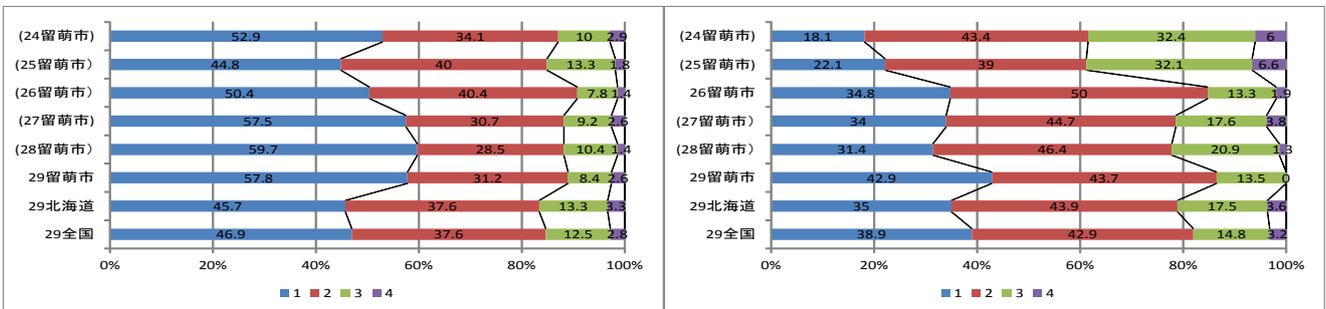
(3) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



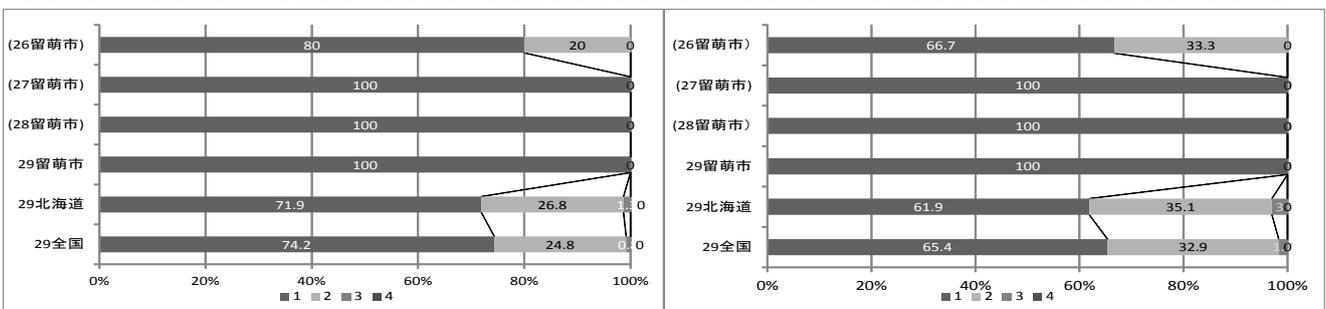
(4) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、学級の友達との間(生徒との間)で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



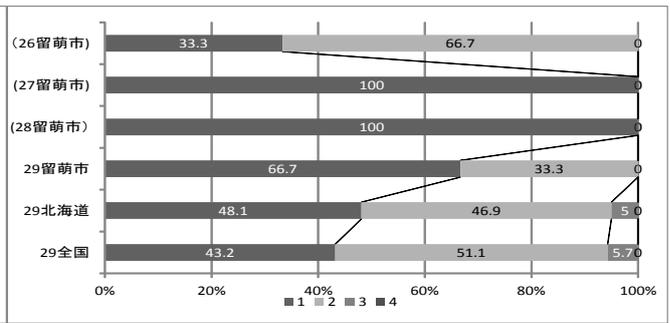
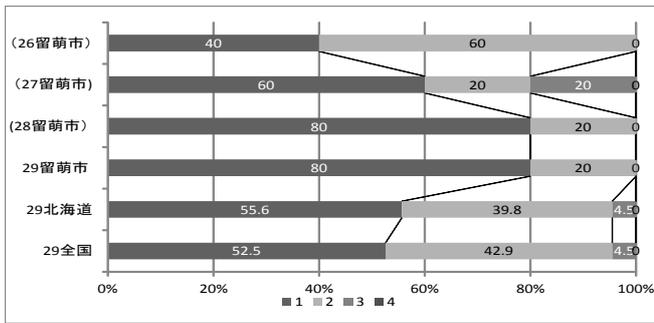
(5) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



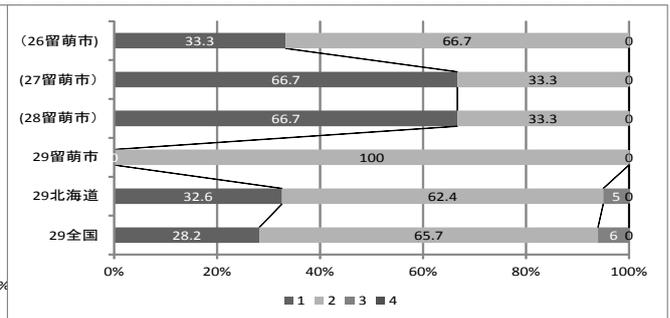
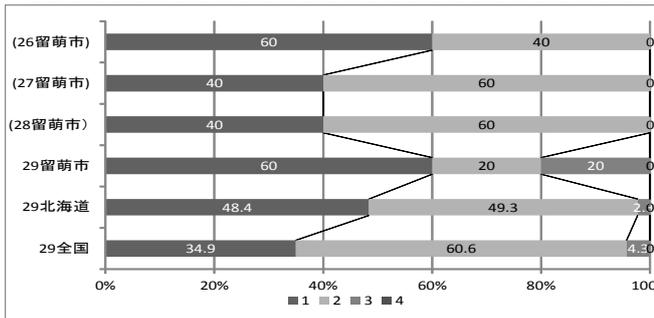
(6) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

選択肢は(5)に同様



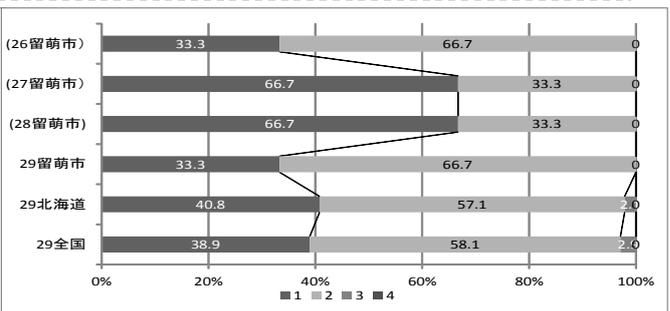
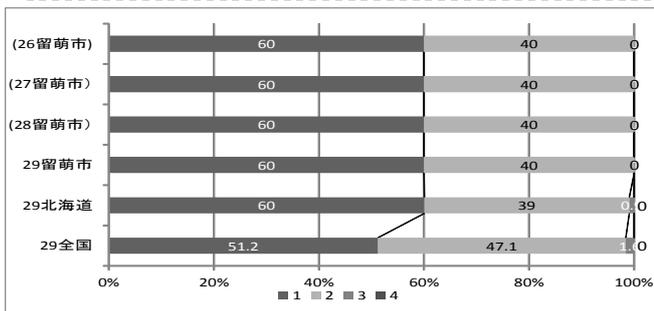
(7) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

選択肢は(5)に同様



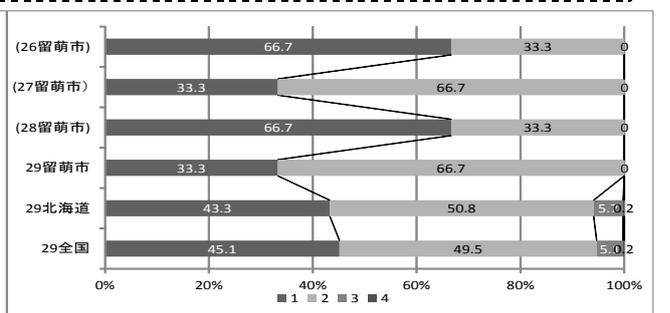
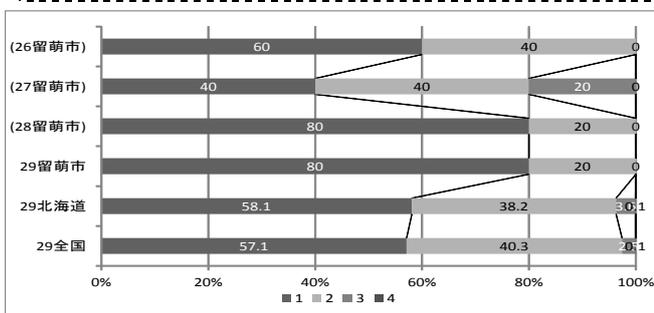
(8) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

選択肢は(5)と同様



(9) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動などを授業などで行いましたか

選択肢は(5)と同様



【小学校】

- ・授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと肯定的に回答した児童の割合は前年度より増加し、全国よりやや高い。
- ・授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと肯定的に回答した児童の割合は全国よりやや高い。
- ・様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導については課題のある学校があ

る。

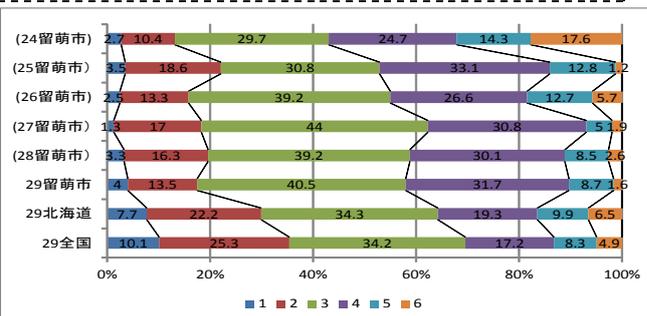
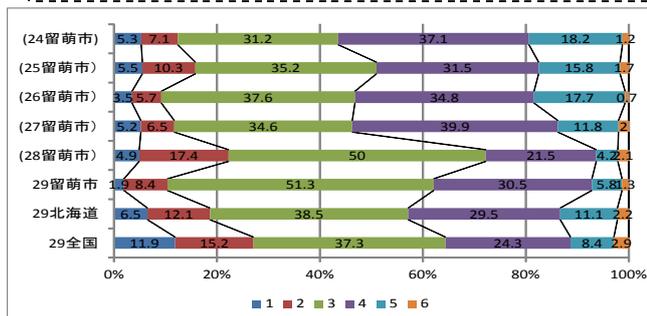
【中学校】

- ・授業のはじめに目標の提示がされていたと肯定的に回答した生徒の割合は年々増加し、全国より高い。
- ・授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高い。
- ・すべての学校においては、様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導については、多少の取組の弱さがある。

3 学習時間等<児童生徒> 家庭学習<学校>

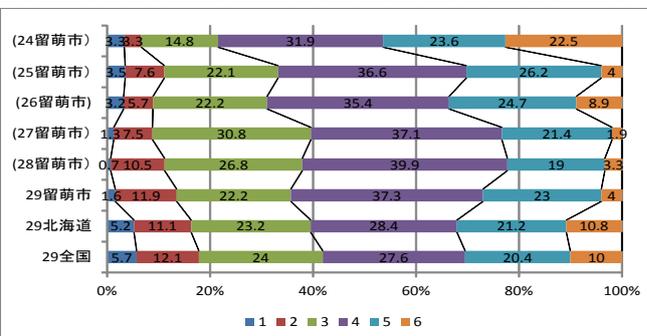
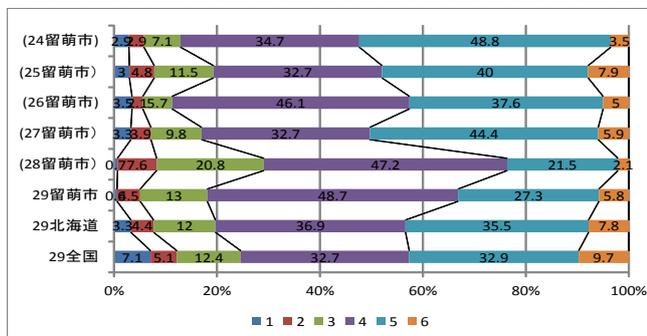
(1) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



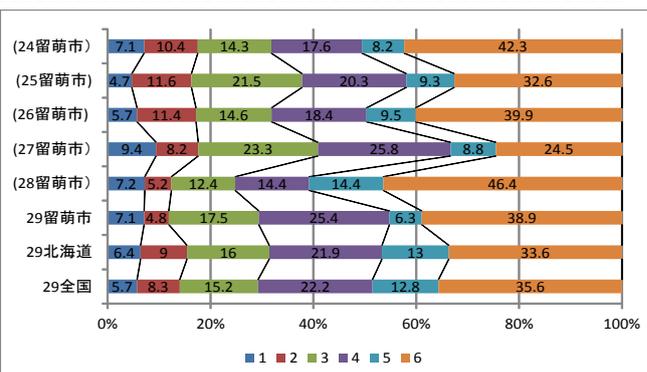
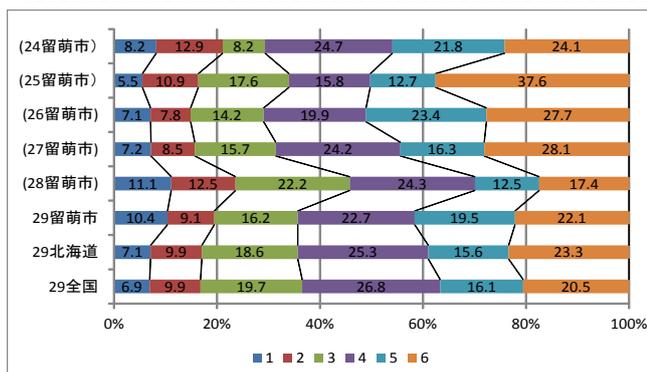
(2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くない



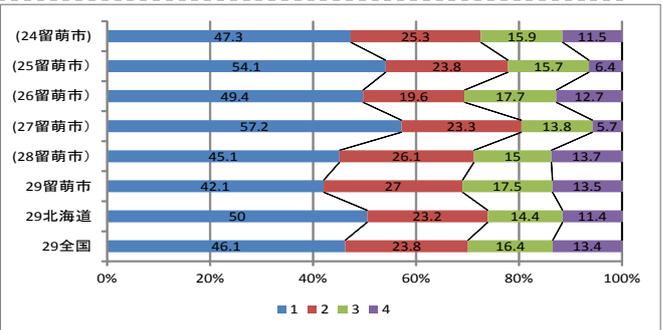
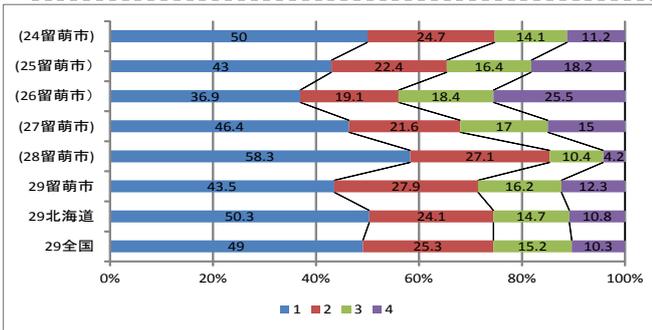
(3) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



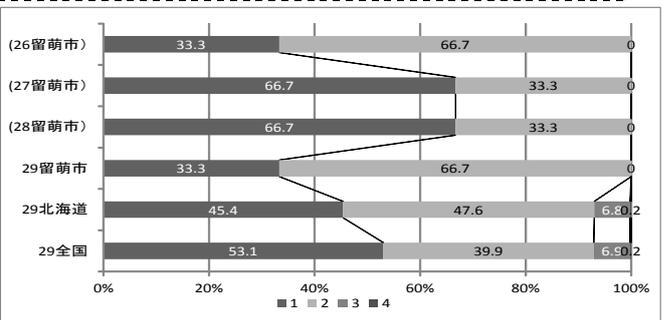
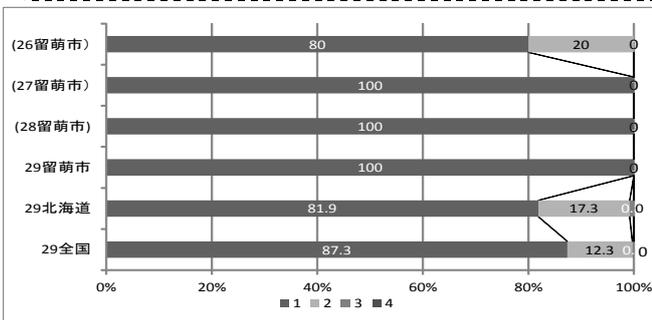
(4) 読書は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



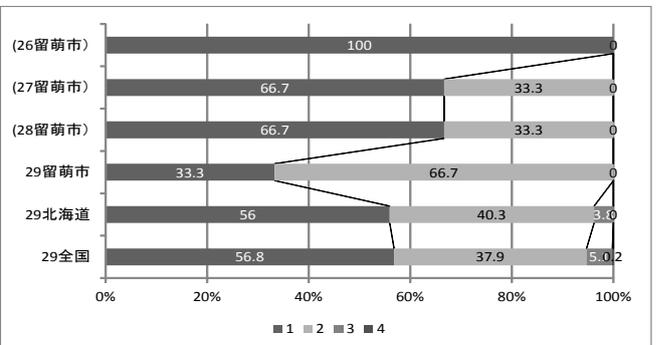
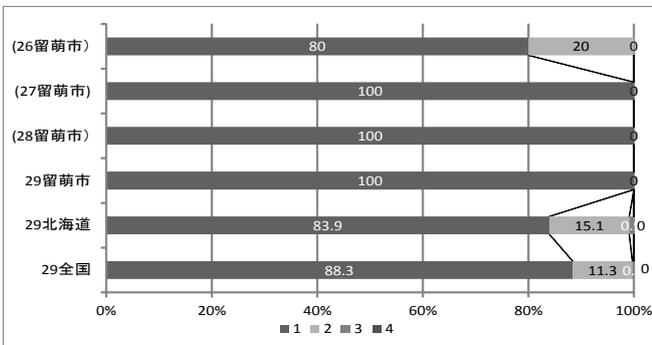
(5) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



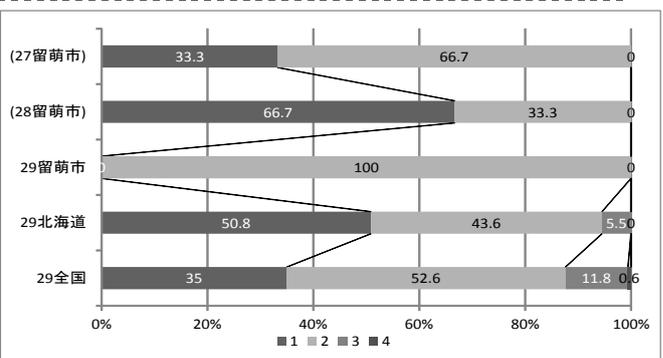
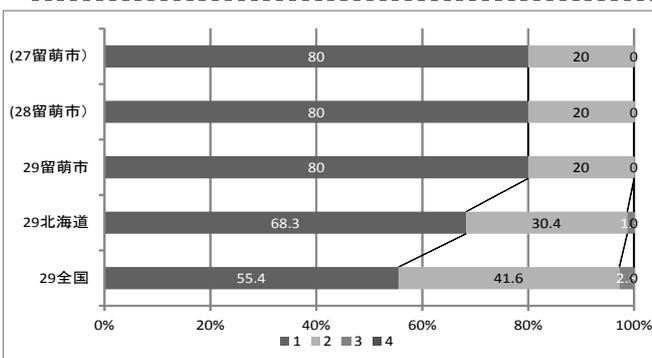
(6) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数（数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか

選択肢は（5）と同様



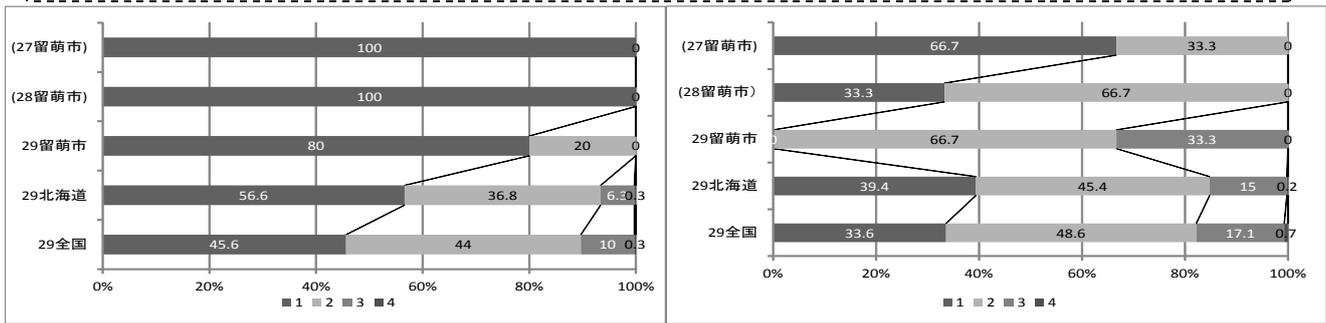
(7) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）

選択肢は（5）と同様



(8) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数・数学共通）

選択肢は（5）と同様



【小学校】

- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は昨年より大きく減少した。
- ・ 土曜日や日曜日に、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は全国より高い。
- ・ 読書が好きですと肯定的に回答した児童の割合は、前年度と比べ大きく減少した。
- ・ すべての学校が、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。

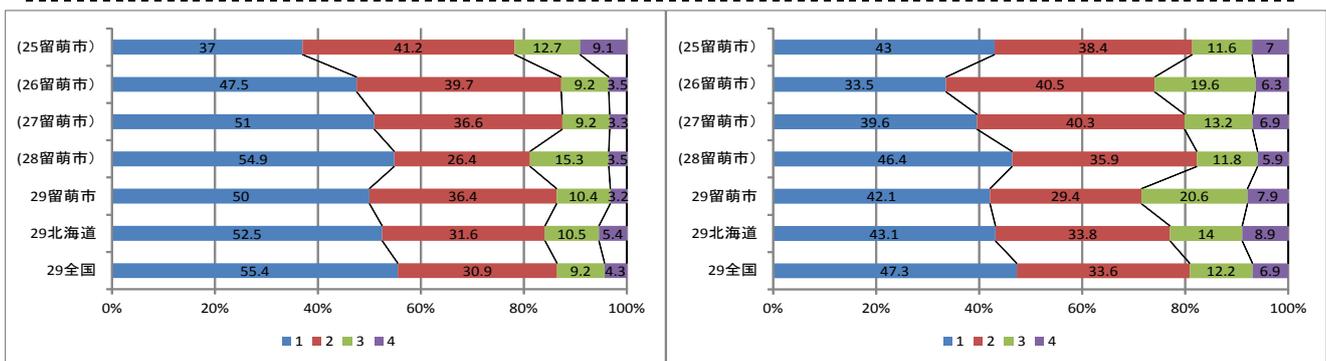
【中学校】

- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は全国より低い。
- ・ 普段、読書を全くしないと回答した生徒の割合は前年度よりは減少した。
- ・ 読書が好きですと肯定的に回答した生徒の割合は、27年度以降、減少傾向にある。
- ・ 学校が、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員での共通理解を図ったり、保護者に対して、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行うことについては、多少の課題がある。

4 学校生活等＜児童生徒＞

(1) 学校に行くのは楽しいと思えますか

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない



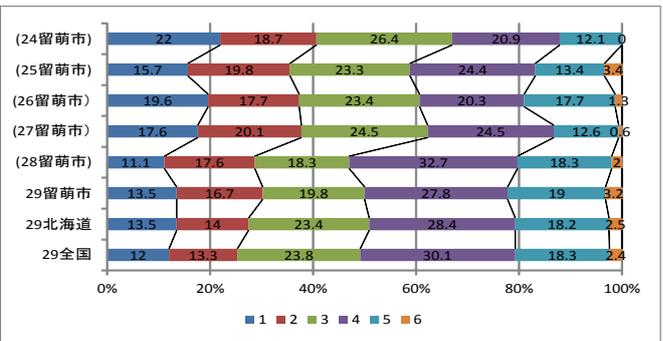
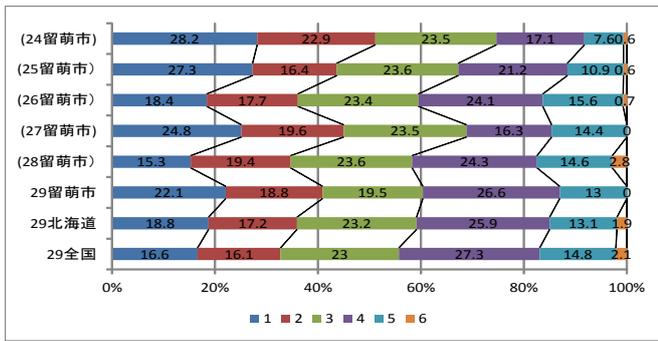
【中学校】

- ・ 学校に行くのは楽しいと思うと肯定的に回答した児童の割合は全国より低い。

5 基本的な生活習慣＜児童生徒＞

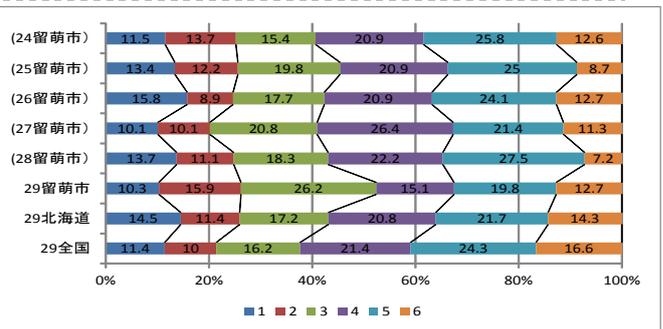
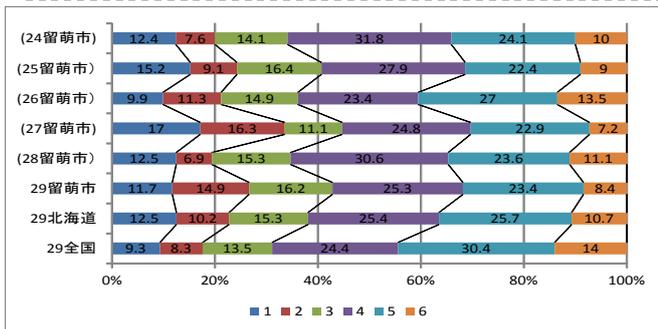
(1) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲームをする時間は除く）

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上 5 1時間より少ない 6 全く見たり、聞いたりしない



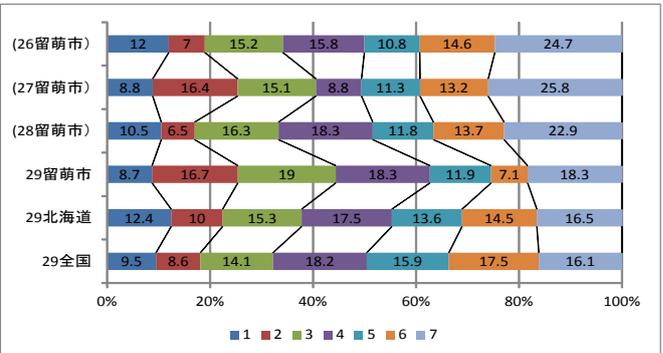
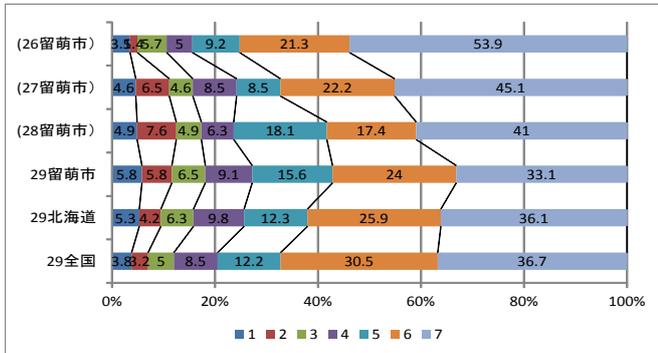
(2) 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

選択肢は(1)とほぼ同様, ただし, 6のみ変更(6 全くしない)



(3) 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

- 1 4時間以上 2 3時間以上, 4時間より少ない 3 2時間以上, 3時間より少ない
 4 1時間以上, 2時間より少ない 5 30分以上, 1時間より少ない
 6 30分より少ない 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない



【小学校】

- ・ 普段, 1日当たり3時間以上, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりする児童の割合, また, 3時間以上, テレビゲーム等をする児童の割合も前年度よりも多く, 全国, 全道より高い。
- ・ 普段, 1日当たり2時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている児童の割合は年々増加しており, 全国, 全道より高い。

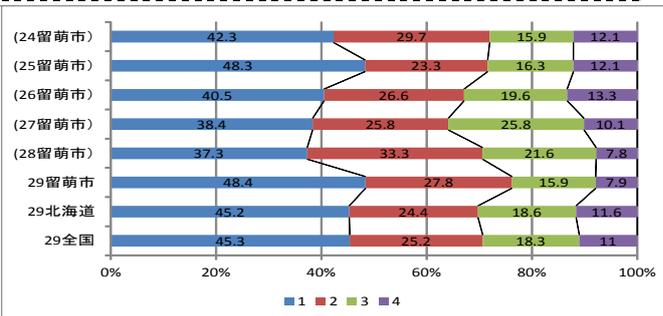
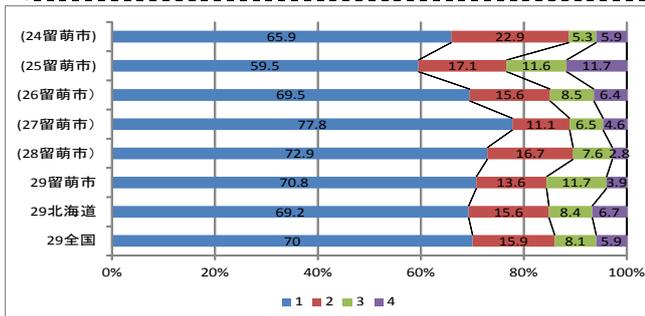
【中学校】

- ・ 普段, 1日当たり3時間以上, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりする生徒の割合, また, 3時間以上, テレビゲーム等をする生徒の割合も前年度よりも多少多く, 全国, 全道より高い。
- ・ 普段, 1日当たり2時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている生徒の割合は前年度より増加し, 全国, 全道より高い。

6 将来に関する意識<児童生徒・学校>

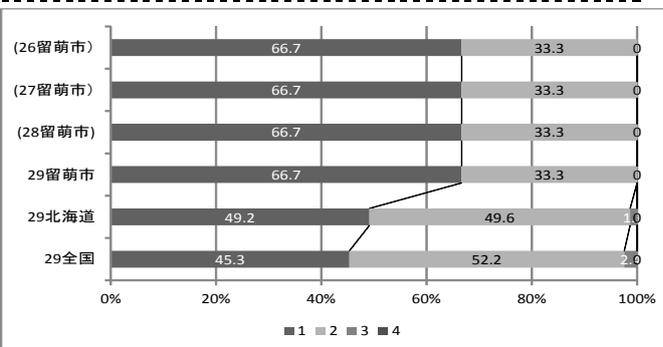
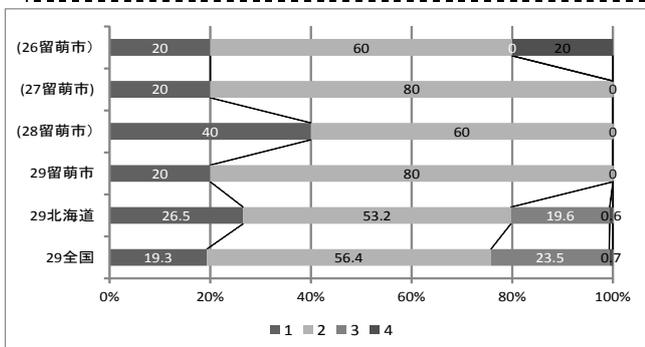
(1) 将来の夢や目標を持っていますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



(2) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



【小学校】

- ・将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は前年度よりは減少したが、全国とほぼ同じ状況である。

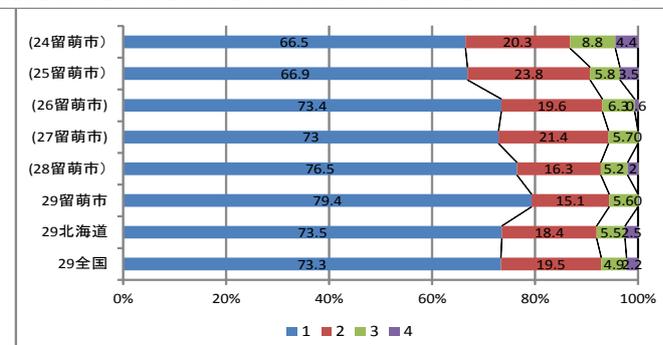
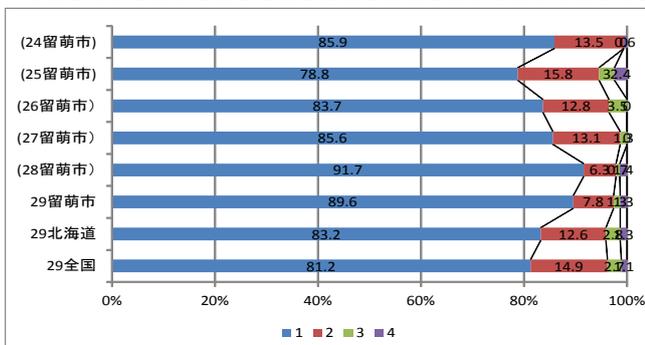
【中学校】

- ・将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は27年度より増加傾向であり、全国より高い。

7 規範意識<児童生徒>

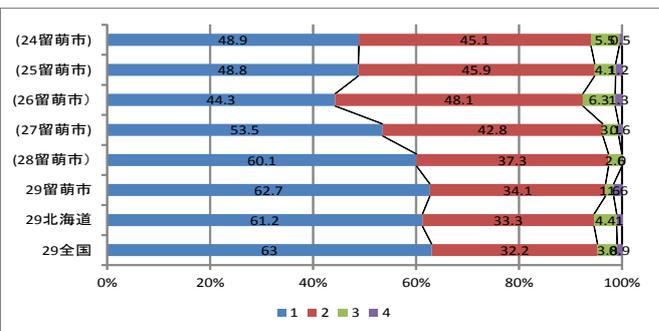
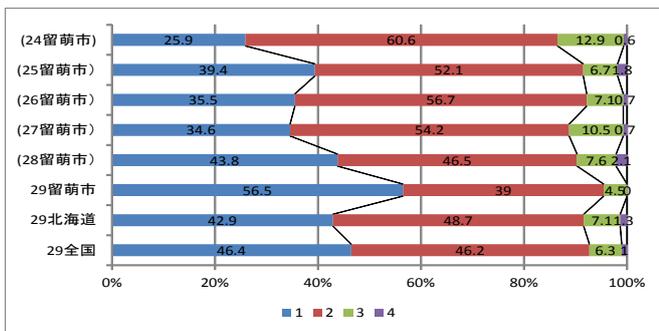
(1) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- 選択肢は6の(1)と同様



(2) 学校のきまり、規則を守っていますか

- 選択肢は6の(1)と同様

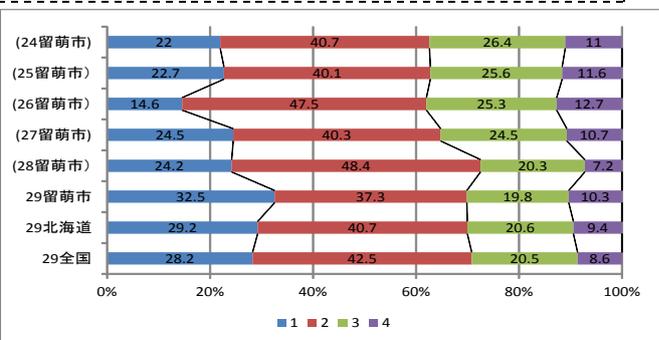
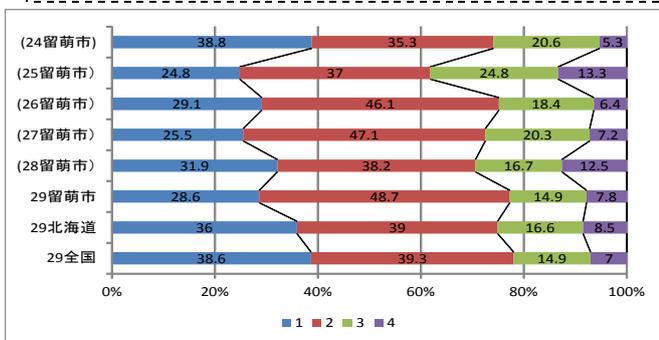


【小学校】
 ・いじめはどんなことがあってもいけないことと肯定的に回答した児童の割合は97.6%である。
 【中学校】
 ・いじめはどんなことがあってもいけないことと肯定的に回答した生徒の割合は94.5%である。

8 自尊意識<児童生徒>

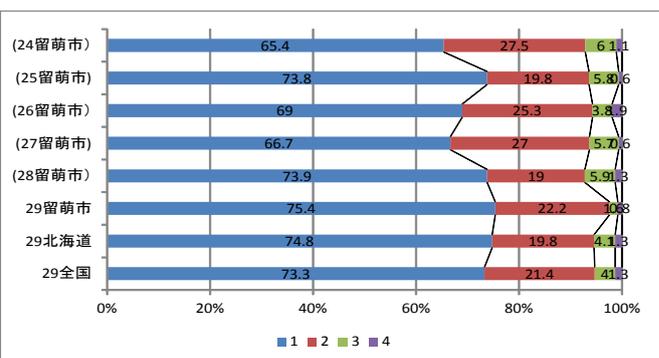
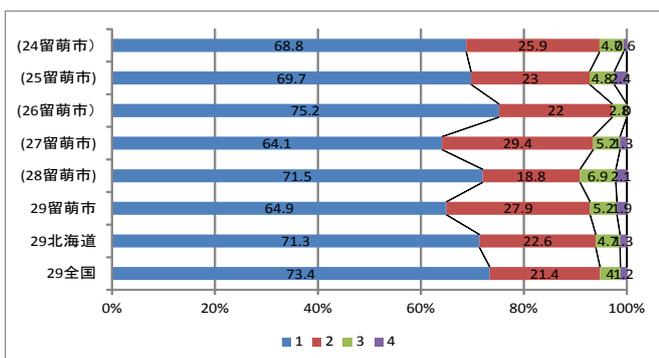
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

選択肢は6の(1)と同様



(2) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

選択肢は6の(1)と同様

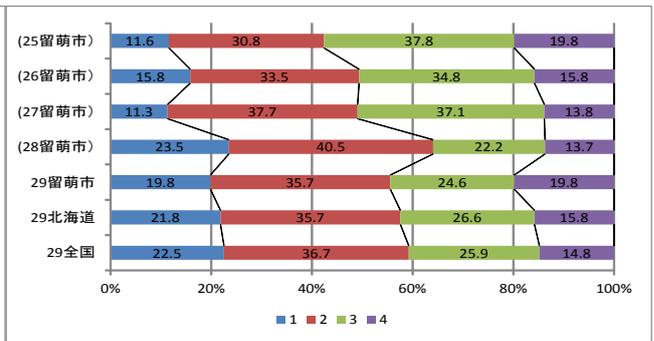
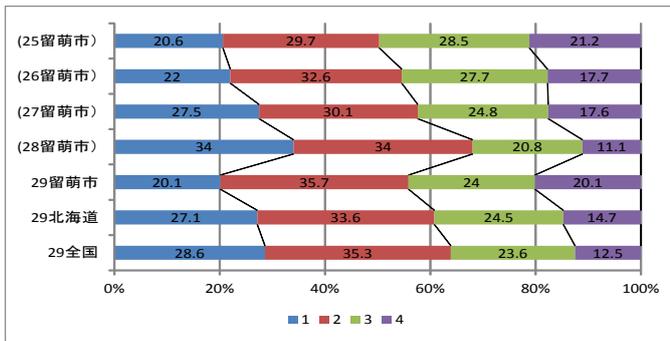


【小学校】
 ・自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、前年度より増加した。
 【中学校】
 ・ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがありますと肯定的に回答した生徒の割合は前年度より増加し、全国より高い。

9 社会に関する興味・関心<児童生徒>

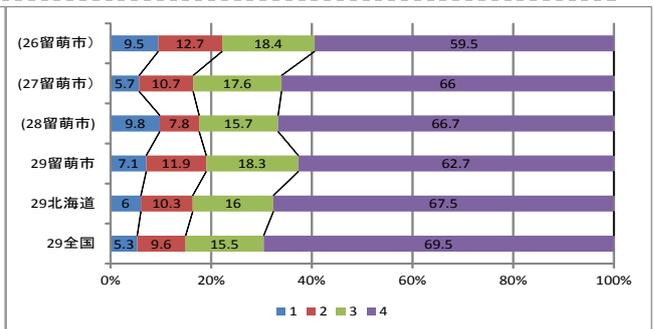
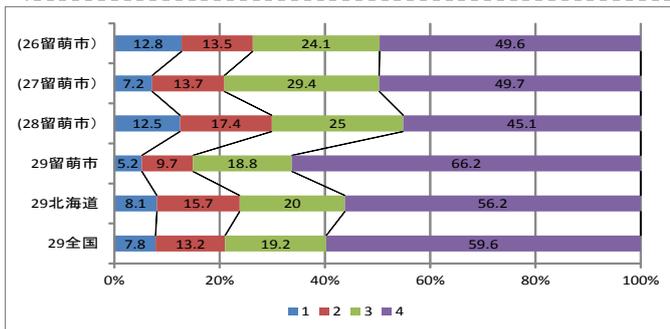
(1) 地域や社会で起きている問題や出来事に興味がありますか

選択肢は6の(1)と同様



(2) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程度読んでいる 3 月に1～3回程度読んでいる
 4 ほとんど、または、全く読まない



【小学校】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した児童の割合は前年度より大きく減少し、全国より低い。
- ・新聞をほとんど、または、全く読まないという児童の割合は66.2%に達し、全国と比べても多い。

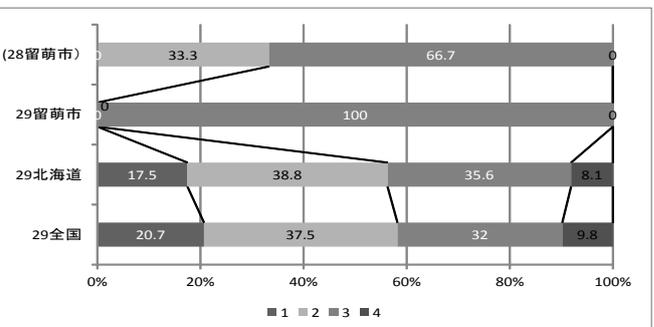
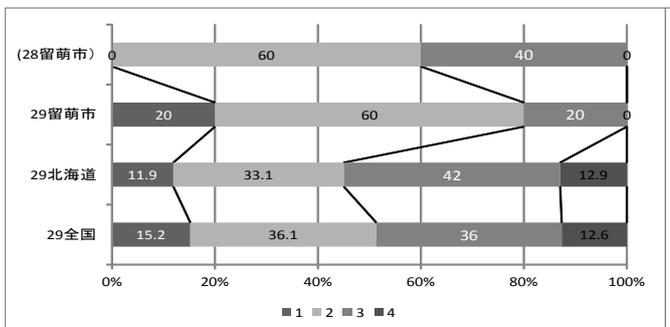
【中学校】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した生徒の割合は前年度よりも少なく、全国より低い。
- ・新聞をほぼ毎日あるいは週に1～3回程度読んでいる生徒の割合は前年度より多く、全国よりやや高い。

10 その他<学校>

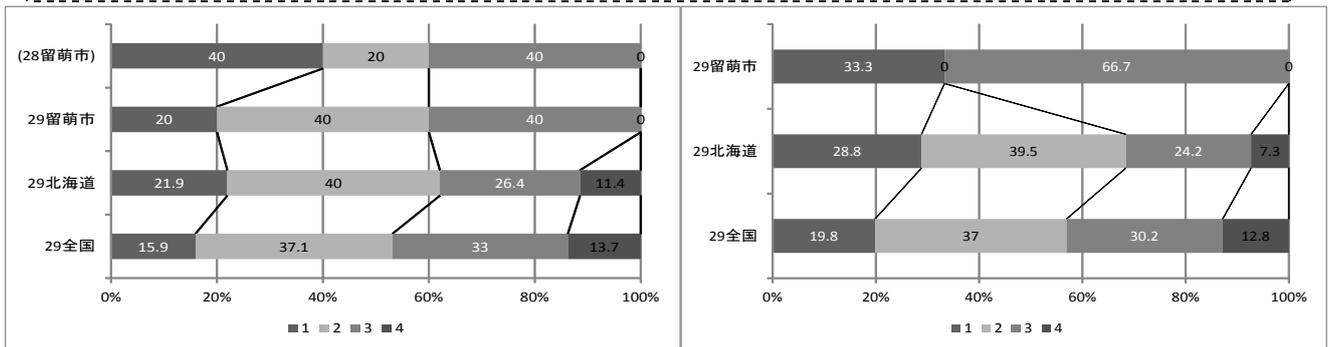
- (1) 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行いましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



(2) 平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか

選択肢は（1）と同様



IV おわりに

本報告書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめ、報告としたものです。

また、本調査の結果は、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙から見える特徴的な事項等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立による授業改善の徹底」「指導方法の工夫・改善」「放課後や長期休業中の学習サポートの実施」「ICT活用を図った授業づくり」など、様々な取り組みを推進・展開しています。その結果、今年度は小中学校合わせて8教科（A、B別）のうち、4教科が全道平均を上回り、うち2教科が全国平均以上であります。また、他の教科についても全国の平均正答率との差が縮まり、改善の傾向にあります。

一方、児童生徒質問紙・学校質問紙からは学習内容の確実な定着のために向けて、学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を充実し、効果的に進めて行くこと、また、生活習慣を確立することができるよう、時間の使い方やメディアとの関わり方等、学校と家庭、地域の共通理解のもと、連携を進めていくことが大切であることがわかります。さらに、今後も本調査の分析結果について、成果や課題を共有し、学力向上と生徒指導の両面から9年間を見通して、小学校と中学校が連携しながら進めていくことが重要であります。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために最低限必要な学力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務であります。留萌市教育委員会と各小中学校において、「いま目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が共有し、連携協働しながら目に見える改善に今後も取り組んで参りますので、ご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。